

小千谷市理科部のまとめ

1 研究活動の方針

小千谷市の学校教育におけるスローガン「心豊かにたくましく生きる小千谷の子ども」の具現を目指し、資質能力を高め合い、指導力の向上に努めている。

2 研究活動の実際

(1) 市小教研理科部会

今年度から、小学校部会の国語・社会・算数・理科の教科部会を発足させ、市内の全教員がいずれかに所属して年2回の部会をもった。

① 第1回理科部会の概要

- 学年ごとのグループに分かれて、新しい教科書になったの指導上の留意点等の情報を交換した。
- 各学年での話し合いで共通していたのは次の2点である。
 - ・ 気候条件など地域の実態に即した単元配列の工夫
 - ・ 教科書巻末にある「話す」「調べる」「記録」のページの活用

② 第2回理科部会の概要

- 教育課程伝達講習
- 情報交換
学年ごとに、全会員が持ち寄ったレポートに基づいた実践報告と情報交換を行った。



(2) 学習指導改善調査研究協力員授業実践

- 11月22日(火) 小千谷市立吉谷小学校
第5学年「ものの溶け方」 授業者 横山ひろし教諭の実践
- KJ法を使ったグループ協議

【協議題】

予想や結果、考察を説明する活動は、知識を定着させ、表現力を高めるために有効であるか。

- 御指導 魚沼理科教育センター 三津輪宏之指導主事
 - ・ 実験では、生活経験をもとに、確かな根拠をもって予想を立て、自分の立ち位置を明らかにすることが大切。
 - ・ 理科では、図やグラフも言語活動である。図やグラフを自分の言葉で説明できるようしにから意見交流をさせる。
 - ・ 課題→予想→結果→考察→結論の過程を踏まえる。結果と考察を明確に区別する。結果は事実であり、考察は結果に自分の推論を入れてなぜそうなったかをまとめる。



3 魚沼・小千谷地域理科教育センターとの連携

センター主催の研修会参加者が、昨年同期を上回っている。特に、要請訪問研修を通じた研修の機会が増えた。今後は、尾瀬環境学習への積極的な参加や若手教員向けの研修の充実を連携の中で図っていく。

(文責 小千谷市立東山小学校 阿部 節子)